

石棺の謎大研究！

～種類と地域の関係とは～



写真：お富士山古墳所在長持形石棺／伊勢崎市

太田市立太田中学校 2年 糸井志帆

1. このテーマにした理由

大王級の古墳のみに使用されている最上ランクの石棺が伊勢崎市のお富士山古墳にあることを知りました。この石棺が安堀町の古墳にあるということで、昔の安堀町には大きな権力をもった人物がいたと考えられます。また、高崎市の保渡田古墳群には舟形石棺という石棺が出土しています。石棺の種類によって被葬者の権力の大きさや、地域との結びつきも違うのではないかと思い、石棺の種類とその関係性について調べてみたいと思いました。

2. 調査

①棺について

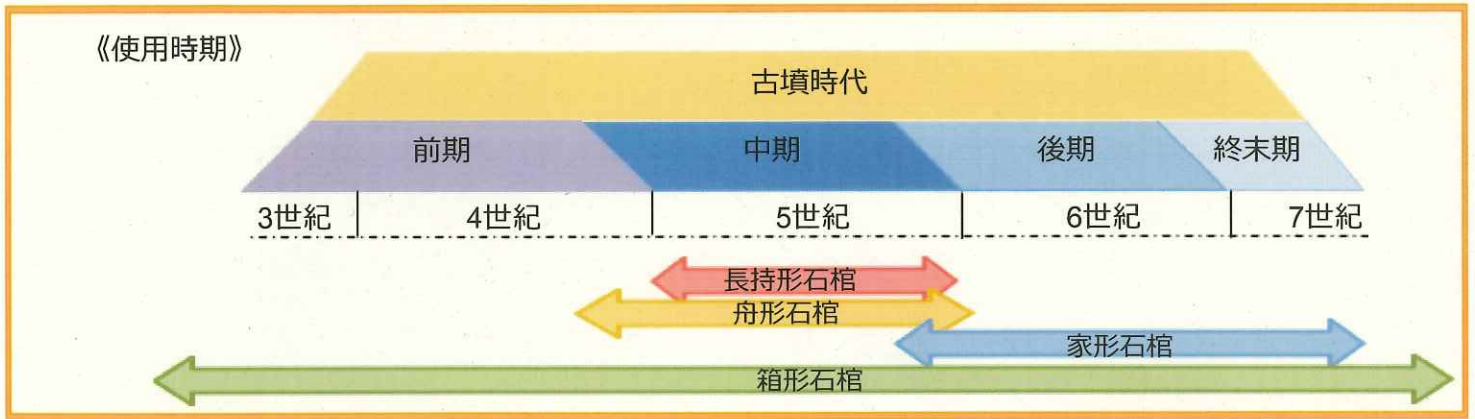
古墳に遺骸を埋葬した際に使用された棺には、その材質により石棺・木棺・陶棺・乾漆棺などがあります。様々な棺の中で石棺が最も堅牢で密閉性に優れています。

石棺	遺骸を納める棺を石材でつくったもの
木棺	遺骸を納める棺を木材でつくったもの
陶棺	遺骸を納める棺を粘土を焼いてつくったもの
乾漆棺	遺骸を納める棺を夾紵（きょうちよ、麻布）を漆で貼り重ねる技法によってつくったもの

②石棺の種類

石棺には大きな石材をくり抜いたものと板状の石材を組み合わせたものがあります。

形状	名称	特徴
くり抜き式	舟形石棺	身と蓋を合わせた断面は楕円形をしており、両端が斜めに切られていて船の形に似ています。古墳時代前期の後半から中期にかけて用いられました。
	家形石棺	蓋石が屋根形で、身は刳抜き式または組み合わせ式の箱状の石棺です。古墳時代中期後半から終末期まで用いられました。
組み合わせ式	長持形石棺	底石と前後左右の側壁石を組み合わせ、蒲鉾形の蓋をのせたものです。畿内の大王級のみ採用されている、最上ランクの石棺です。
	箱形石棺	自然のままあるいは加工した板石を組み合わせで箱形につくった石棺です。日本では弥生時代には九州から瀬戸内西辺、古墳時代には九州から東北で用いられていました。



・舟形石棺



《古墳》

- ・保渡田八幡塚古墳 (高崎市)
- ・不動山古墳 (藤岡市)

写真：Wikipedia

・家形石棺



《古墳》

- ・宝塔山古墳 (前橋市)
- ・愛宕山古墳 (前橋市)

写真：Wikipedia

・箱形石棺



《古墳》

- ・丸塚山古墳 (伊勢崎市)
- ・塚廻古墳群第4古墳 (太田市)

写真：Wikipedia

・長持形石棺



《古墳》

- ・お富士山古墳 (伊勢崎市)
- ・天神山古墳 (太田市)

写真：Wikipedia

③石棺が発見された古墳について

《長持形石棺》

・お富士山古墳（伊勢崎市安堀町）前方後円墳

お富士山古墳は全長125mの5世紀前半の前方後円墳です。両毛線により前方後円墳の一部が切断されていますが、前方後円墳の形状をよくとどめています。昭和38年(1963年)に群馬大学の学術調査で、墳丘は3段築造され、石が巡り、大型円筒埴輪の配列が確認されました。後円部頂上の富士神社そばに、砂岩製で縄掛突起をもつ県指定重要文化財の長持形石棺があります。古墳時代中期の天皇陵古墳や各地の最有力首長の埋葬に採用された傾向があります。このことからこの古墳は古墳時代中期につくられ、被葬者は天皇と関わりのある人物もしくは現在の安堀町付近で最も大きな権力を持っていた人物だと考えられます。この古墳から見つかった石棺に使われている石は、地元のものですが、石棺の形や、石の組み合わせが近畿地方のものに似ているため、天皇家の石棺をつくっていた職人がつくったものであると考えられます。しかしながら、群馬県内で長持形石棺が見ついている太田天神山古墳に比べると古墳の大きさは小さいです。



実際に行ってきました！
石棺が思ったより大きかったです！

・太田天神山古墳（太田市内ケ島町）前方後円墳

太田天神山古墳は210mの東日本最大級の古墳であり、全国の中でも30位以内に入っている大前方後円墳です。江戸時代に長持形石棺が発見されました。出土した埴輪や長持形石棺から、ヤマト王権と深いつながりがあると考えられます。未調査のため、不明な点は多いが大きさも東日本最大級と大きいことから、当時の東日本で大きな権力を持っていた人物のものだと考えられます。また、古墳の形状や石棺の種類から伊勢崎市のお富士山古墳となにか関わりがあると考えられます。



上の写真：東国文化副読本 P.37
左の写真2枚：Wikipedia

《舟形石棺》

・保渡田八幡塚古墳（高崎市井出町）

保渡田八幡塚古墳は全長102mの古墳で舟形石棺がしています。舟形石棺が発見されたことからこの古墳は古墳時代前期の後半から中期につくられたと考えられます。前方部に円筒埴輪列で方形に区画された部分から形象埴輪が出土しています。保渡田八幡塚古墳は保渡田古墳群の一つであり、保渡田古墳群の他の古墳からも舟形石棺が出土しています。舟形石棺は長持形石棺に次ぐ階級の豪族に用いられたとされているため、大きな権力を持っていた人のものだと考えられます。



【手前：二子山古墳、奥：八幡塚古墳】

写真：東国文化副読本 P.39



写真：ググっと群馬公式サイト



写真：Wikipedia

《家形石棺》

・宝塔山古墳（前橋市総社町）方墳

群馬県最大の方墳で、現状の地形で見ると、墳丘南側には幅約24mの一段低い畑地面があり、周掘の痕跡と見られます。これを含めると、その墓域は一辺100m前後の規模となります。埴輪は出土していません。

いえかたせつかん
【家形石棺】

写真：東国文化副読本 P.54

《箱形石棺》

・丸塚山古墳（伊勢崎市三和町）帆立貝式古墳

組み合わせ式箱形石棺が発見されています。古墳の形状が帆立貝式古墳ととても珍しいです。帆立貝式古墳とは、円丘の一方に比較的小さな方形の付属物が付き、平面形が帆立貝に似ている古墳の総称で、古墳時代中期に多く用いられており、全国で400例を超える古墳です。このことからこの古墳は古墳時代中期に造られたと考えられます。



写真：伊勢崎市ホームページ



写真：伊勢崎市ホームページ



写真：いせさきふらっと観光

○考えたこと

調べてみたら、出土品と石棺の種類に関係性はありませんでした。

ただ、古墳の大きさには少し関係があると思います。例えば、長持形石棺が発見された太田天神山古墳は東日本最大級の古墳であり、県内の古墳の中で圧倒的に大きい古墳です。また、お富士山古墳も県内8位の大きさです。古墳が大きいと権力も大きいという仮説に当てはまれば、権力の大きさによって石棺の種類が分けられる事もあったと考えられます。

また、古墳の形と石棺の関係ですが、石棺が出土した古墳は大半が前方後円墳です。だから、何か関係があるのかと思いました。しかし、群馬県の古墳のうち約90%は円墳か前方後円墳なので関係ないと考えました。また、同じ石棺が発見された古墳でも形が違うものもあるためその仮説は薄いと考えました。

④石棺が出土した古墳の数について

《長持形石棺》

- ・太田天神山古墳
- ・お富士山古墳

合計2つ

《舟形石棺》

- ・八幡塚古墳
- ・薬師塚古墳
- ・井出二子山古墳
- ・不動山古墳
- ・姥山古墳
- ・平塚古墳
- ・宗永寺

合計7つ

《箱形石棺》

- ・丸塚山古墳
- ・達磨山古墳
- ・塚廻り古墳群
第4古墳

合計3つ

《家形石棺》

- ・今泉口八幡山古墳
- ・宝塔山古墳
- ・愛宕山古墳

合計3つ

調べてみると、群馬県内の石棺が見つかった古墳で一番出土しているのは舟形石棺だということが分かりました。長持形石棺は当時の天皇と深く繋がりがあり、ごく一部の権力者にしか用いられない石棺だったことがこの結果から分かります。また、群馬県内の古墳全てから出土しているのではなく、高崎市の綿貫観音山古墳のように棺を用いることなく遺骸を安置していた古墳もあることが分かりました。（この古墳の数は調べた結果からまとめたため、正確な数字でない場合があります。）

⑤石棺と地域の関わりについて

群馬県内で発見された石棺を種類ごとに地図にまとめてみました。



石棺が出土している古墳はその種類ごとに固まって位置していることが読み取れる。

○考えたこと

この地図を見ると、石棺が出土している古墳は群馬県の南側にあることが分かりました。また、種類別に石棺の出土した地域を見てみると長持形石棺が出土した古墳は県の南東の方に、舟形石棺は全て高崎市内に、冢形石棺は県の中心辺りに、箱形石棺は東側にあることが分かりました。石棺は権力の大きさだけで使い分けられるのではなく、地域によって種類が違ふことがあると考えられます。したがって、当時の人々はその地域で大きな権力をもっていた人が亡くなると地域に根付いた石棺を用いて埋葬していたと考えられます。また、舟形石棺は凝灰岩でつくられています。その凝灰岩の産地は分かりませんが、同じ産地の凝灰岩を使っていれば、古墳同士の繋がりも発見できるのではないかと考えられます。

3. 調査のまとめ

今回は石棺の種類と出土した地域の2つの観点から調査をしましたが、石棺の種類は地域によって違ふ物もあり、権力の大きさだけが関わっているのではないということが最終的な結論です。また、今回の調査で石棺が出土しなかった群馬県北部にある古墳は調査①の石棺以外の棺で納められたとも考えられるので、やはり地域によって棺の種類は異なっていたと考えられます。また、石棺は他の棺よりも丈夫であり当時の状態のまま出土しているものがほとんどです。石を削ったり運んだりするのは重労働であり、木棺などをつくったほうが簡単だと知りながら人々はなぜ石棺をつくったのでしょうか。それは被葬者の権力や被葬者に敬意を払う人々の気持ちがあったからつくられたのだと私は思います。

4. 感想

今回調査をしてみて、石棺が現代の私達にたくさんの情報を与えてくれることにとっても感動しました。今までは石棺などの出土品より古墳の形や大きさでしか古墳の魅力を感じていませんでしたが、出土品からは当時の様子を細かく読み取れ、古墳についてもっと興味が持てました。今回は『石棺』というテーマでしたが、調べてみて、この出土品はなんだろう？、なんで作られたんだろう？などの様々な疑問が浮かび上がってきたので、次の機会に調べてみたいです。

群馬県にはたくさんの古墳があり、それにまつわる施設もきちんと整備されています。こんなにも古墳時代のことについて専門的に、わかりやすく学べる場所は本当に少ないと思い、充実した学習ができることのありがたさを感じました。今はネットで簡単に調べられてそういった施設を利用しない人も多いと思いますが、実際に行ってみたり目で確かめたりして東国文化の歴史をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。私も群馬県立歴史博物館を訪れて、その資料の豊富さや普段は見れない貴重な出土品などにとっても驚きました。また、ほとんどの資料館の入館料が中学生は無料なところも本当にありがたく、こんなに支援していただいているのでたくさん学習して後世に繋がればなと思います。

今年の夏は新型コロナウイルスが更に拡大し、家での調べ学習が基本になってしまったことがとても残念でした。落ち着いたら調べきれなかった点やもっと知りたくなった点を調べ、私達の祖先が歩んだ古墳時代を約1500年の時を経た今、違った形で歩いていけたらいいなと思います。

5. 参考文献

- ・舟形石棺って何？ [茂木 解説書.pdf] https://www.media.gunma-u.ac.jp/content/files/announce/clib/ozaki_D_5.pdf
- ・舟形石棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/舟形石棺>
- ・長持形石棺 [コトバンク] <https://kotobank.jp/word/長持形石棺-107900>
- ・お富士山古墳所在長持形石棺 [伊勢崎市ホームページ] <https://www.city.isesaki.lg.jp/soshiki/kyoikubu/hogo/bunkazaihogo/shitei/kokoshiryo/1455.html>
- ・箱形石棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/箱形石棺>
- ・石棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/石棺>
- ・木棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/木棺>
- ・家形石棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/家形石棺>
- ・長持形石棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/長持形石棺>
- ・太田市の古墳パンフレット(4062KB) https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/kankoubutu/files/otashinok_ofun.pamph.pdf
- ・乾漆棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/乾漆棺>
- ・陶棺 [wikipedia] <https://ja.wikipedia.org/wiki/陶棺>
- ・保渡田古墳群 [高崎市ホームページ] <https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121600491/>
- ・保渡田古墳群薬師塚古墳と西光寺 | 墳頂に薬師堂と凝灰岩製舟形石棺も [群馬の情報サイト We ♥ 群馬] <https://we-love.gunma.jp/kanko/yakushiduka>
- ・白地図 [白地図専門店] <https://www.freemap.jp/free.html>
- ・東国文化副読本 ～古代ぐんまを探検しよう～ [2020年度版]
- ・群馬県立歴史博物館 (7月30日見学)
- ・お富士山古墳 (7月30日見学)



⇒歴史博物館で頂いた缶バッジ